

正員 荒川己與次君

准員 山田德明君 准員 河面德三郎君

全 宮嶋伊助君 全 柳下友太郎君

一來ル廿三日通常會後直ニ總會ヲ開設スル事

演 說

八王子鐵道論

在橫濱 清水 保吉

會長客員正員准員諸君小生ハ本日八王子鐵道論ト云フ論題ヲ以テ演說ヲ試ミントス而シテ本題ヲ演述スルニ先キ左ノ二ヶ條ヲ御記憶アラシメテ希望ス

第一本員ハ當時神奈川縣ニ奉職スル者ナリ然ルニ此鐵道ハ全縣ニ關係ヲ有スル不勘ルヲ以テ神奈川縣官ノ資格ヲ以テ此演說ヲナスヤノ疑ヲ起ス諸君ナキニシモアラザルヲ信ス然レモ小生ノ演說ハ學術研究ノ爲本會々員ノ資格ヲ以テ論スルモノニ

シテ本日ハ局外者ナリ諸君之ヲ諒セヨ

第二小生ハ公衆ニ向テ演説ヲナスハ本日ヲ以テ初メトス故ニ其道ニ熟達セザルヲ以テ言語不順序議論錯雜等ノ恐れアラシムヲ信ス就テハ演説後諸君ニ於テ充分御質問アツテ小生ノ意アル處ヲ御了解アラシムヲ希望ス

且亦小生本日ノ演説ニ付二ヶ條ノ主意アリ是亦諸君ニ於テ御記憶アラシムヲ企望ス

第一輓近地方ノ情况ヲ見ルニ鐵道々路等ノ開鑿ヲ企圖スルニ當テ甲ヨリ乙ニ達スルニ種々ノ線路ヲ發見シ甲線乙線丙線等ノ起ルニ際シ其是非善惡ヲ判斷スルニ多クハ席上論ヲ以テ決定スルヲアリ或ハ其道ニ熟達セザル名望者又ハ有力者ニ於テ決定スルヲアリ然リ而シテ竣功後學士等ノ説ヲ聞キ大ニ其決斷ノ倉卒ナリシヲ悔ムヲアルヲ聞ク是レ小生ノ常ニ慨歎スル處ナ

リ此鐵道ハ右様ノ儀アラサランヲ切望ス是レ本日此演說ヲ
ナスノ第一ノ主意ナリ

第二輓近世ノ金融甚ダ不活潑ニシテ本年ニ至リ海外著名ノ輸出
品生糸歐洲騷擾ノ風聞ニテ最モ沈滯ノ姿ナリ橫濱港内ニ二万
五千捆此代價凡千二百五十万圓ノ生糸ヲ倉庫ニ貯蓄スルニ及
ベリ如斯ハ古今未曾有ノ事ニシテ其道ニ當ル人ハ長大息ヲナ
ス處ナリ米穀限月相場モ客歲ノ豐熟ニテ是亦不活潑ナリ如斯
場合ナルヲ以テ豪農豪商ノ如キ金力ニ富ム者ハ其扱方ニ困却
スルヨリ投機ニ熟スル奸商ノ起テ株式ニ非常ノ活潑ナル運動
ヲ來スニ及ベリ其内甚シキハ未定鐵道株式ヲ以テ最トス之ニ
金員ヲ投スル者ノ言ニ曰ク鐵道株式ハ純益最モ確實ノモノニ
シテ何鐵道ヲ布設シ之ヲ營業スルハ何割ノ利益配當ヲ得ラ
ルベシ如斯金融緩漫ノ時ニハ宜ク鐵道資本ニ向テ金ヲ投スベ

シト甲唱へ乙傳へ投機商ノ煽動最モ勢力ヲ得可驚結果ヲ出顯セリ又曰ク何鐵道ハ金五十錢ノ拂込ミニテ己ニ金三十圓ノ賣買ヲナスニ至ル云々蓋シ是等小生ノ耳朵ニ觸ル、一數回ニ及ベリ然ルニ右奸商ノ輩ハ百計万策ヲ施スルノ後株金最高度ニ達セシ際ハ吾所有ノ株券ハ惣テ他人ニ賣與シ他人ノ破産ヲ傍觀スル哉ノ疑アリ是レ先年支那兎ノ流行セシ時ノ如キニアラザルカ小生大ニ疑フ處ナリ故ニ八王子鐵道ノ一例ヲ舉テ爾後企工ノ鐵道資本金ニ向テ右様ノ如キ巨多ノ純益アラザルヲ説明シ世ノ鐵道株ニ惑溺スル人ノ注意ヲ促シ我輩ノ本分ヲ盡サントス是レ本日此演說ヲナス第二ノ主意ナリ

本員ハ此論題ヲ左ノ項目ニ別チ一々論述シ演說後會員諸君ノ高評ヲ煩ンコトヲ希望ス

第一 計畫ノ發端

第二 三線路ノ比較

距離上ノ比較

工事上ノ比較

工費上ノ比較

營業上ノ比較

商業上ノ比較

軍事上ノ比較

第三結論

第一 計畫ノ發端

世運ノ向フ處カ將タ金融ノ緩漫ナルニヨルカ輒近鐵道新設チ内地ニ
企圖スル者不尠九州鐵道ト云ヒ神姫鐵道ト云ヒ兩毛鐵道ト云ヒ水戸
鐵道ト云ヒ其數枚舉スルニ遑アラズ八王子鐵道モ亦其一ニ居ル其根
元ヲ聞クニ數年前東京ノ人井關某多摩川上水ニ沿ヒ馬車鐵道ヲ羽村

へ布設シ西北多广郡及ヒ埼玉縣南部ニ向テ運輸ノ道ヲ開カントスル
ニ原ケリ蓋シ明治ノ初年多摩川上水ニ船ヲ浮ヘ水運ヲ開キシヲ思
付キ發意セシナリト當時專ラ其調査中小生北多广郡ノ有志者某ト相識
ル一日同氏小生ニ語テ曰ク此頃東京ノ人井關某多广川上水ニ沿ヒ新宿
ヨリ羽村ニ馬車鐵道ヲ布設セント計畫シ目今其調査中ナリ右工事ニ付
貴意如何小生曰ク青梅飯能所澤等ニ向テ運輸ノ道ヲ與フルノミ甲州
ノ荷物ハ在來大菩薩峠ヲ越テ青梅ヲ通過シ東京ヘ輸入スル品少ナカ
ラザリシガ輓近甲州街道ニ改修ヲ施シ小佛峠開鑿ノ着手モ將ニ近キ
ニアラントス然レハ甲州ノ荷物ハ此道ニ取ラザルナリ八王子輸出入
品モ甲州街道ニ依ルヲ以テ此道ヲ取ラザルナリ然ラバ此車道ニ向テ
望ム處ノ物ハ前記ノ西北多广及埼玉縣南部ノ地ニ輸出入スル處ノモ
ノヲ目的トナサズンバアルベカラズ如斯一小部分ノ地ヲ目的トシ車道
ヲ開クモ其資本ニ向テ充分ノ純益ヲ與フルヲ覺束ナカルベシ目ヲ轉

シテ南多摩郡八王子ヲ見ルニ近年少シク衰頽ノ狀ヲ現スト雖人口年々繁殖シ毎月六回開設スル糸織物等ノ市ハ吾輩ノ目ヲ驚セリ其人口凡ソ一万五千人日ニ出入スル處ノ旅人千ヲ以テ數ヘ其荷物ノ量モ毎日千駄ヲ以テ數フルト云ヘリ豈盛ナリト謂ハザルヲ得ンヤ然レバ此地ニ向テ馬車鐵道ヲ布設スルキハ羽村ノ比ニアラザルナリ必ス相當ノ利益アルベシ該地ニ於テハ寧ロ本鐵道ヲ試ミルモ是亦相當ノ利益アルベシ某曰ク然ラバ東京八王子間鐵道ハ其資本幾何ヲ要スルヤ小生曰ク其線路ニ當ル所ヲ一巡シ概略ノ計算ヲ立ルニアラズンハ確答ヲ與ヘガタシ某曰ク然ラバ他日貴意ヲ煩ント其後同氏ニ向ヒ該談ヲ促セシヲアリシガ世ノ不景氣ヲ唱ル極度ノ時節ナリシヲ以テ前件暫ク見合セアラソフヲ回答アリシ其後荏苒數年ヲ經過セシガ近年ニ至リ井關氏ノ計畫方向ヲ八王子ニ轉シ荏原郡内藤新宿ヨリ北多摩郡福島村迄ヲ第一着トシ同村ヨリ八王子迄ヲ第二着トシ(第一線路)資本金三十

五万圓ヲ以テ馬車鐵道布設ノ儀ヲ其筋へ上願セリ其主意タルヤ甲州并ニ武州ノ西部ニ向ヒ大ニ運輸ノ道ヲ開カントスルニアリ故ニ名ツケテ甲武馬車鐵道會社ト云フ其後客歲政府ニ於テ嚴格ナル命令書ヲ下シ此ヲ遵奉シテ布設スル事ヲ許可セリ下テ年末ニ至リ更ニ資本金二十五万圓ヲ増加シ瀛關車鐵道ニ變更センコトヲ再願セリ此時ニ當リ鐵道新設論世間ニ囂々ダリシヲ以テ大ニ八王子并ニ横濱人民ノ注意ヲ喚起シ一鐵道會社ヲ組織シ川崎八王子間鐵道(第二線路)ヲ設ケ儀ヲ出願セリ數日ヲ出スシテ西北多摩ノ人民一團結ヲナシ新宿青梅間ニ鐵道ヲ布キ八王子ニ向ヒ支線第三線路ヲ設ケンコトヲ上願セリ是レハ王子鐵道計畫起源ノ大略ナリ横濱八王子間(第四線路)ハ未タ其出願者アルヲ聞カス然レモ是亦一線路ナリ小生ハ第一第三ノ兩線ハ粗ボ同一ト思考スルヲ以テ第一第二第四ノ三線路ニ付愚案ヲ陳述セントス

第二 三線路ノ比較

第一距離上ノ比較

第一線路新宿ヨリ本郷、境、小川、砂川、福嶋、石川、大和田、等ノ諸村ヲ經テ八王子ニ達ス長程凡十一里此哩數凡廿七哩

第二線路川崎ヨリ小菅溝ノ口登戸連光寺高幡等ノ諸村ヲ經テ八王子ニ達ス長程凡十一里此哩數凡廿七哩

第四線路横濱ヨリ程ヶ谷川井原町田木曾走水等ヲ經テ八王子ニ達ス長程凡十一里此哩數凡廿七哩

前述ノ如ク八王子ヨリ其達スル所ハ方向ヲ異ニスト雖モ長程殆ド同一ナリ是レ三線ニ付最モ注意スベキコナリトス右三線横濱ニ向フ處ノ距離左ノ如シ

第一新宿線

八王子ヨリ新宿迄

二十七哩

新宿ヨリ品川迄

六哩四十四鎖

チエーン

品川ヨリ横濱迄

十四哩五十六鎖

計

四十八哩二十鎖

第二川崎線

八王子ヨリ川崎迄

廿七哩

川崎ヨリ横濱迄

七哩六十六鎖

計

三十四哩六十六鎖

第三横濱線

二十七哩

右ニ付テ見ルキハ横濱線ハ最近ニシテ新宿線最遠ナリ語ヲ換テ言ヘ
ハ横濱線ハ川崎線ヨリ近キヲ七哩六十六鎖川崎線新宿線ヨリ近キヲ
十三哩三十四鎖故ニ横濱線ノ新宿線ヨリ近キヲ廿一哩廿鎖ナリ
右三線東京新橋ニ向フ處ノ距離左ノ如シ

第一新宿線

八王子ヨリ新宿迄

廿七哩

新宿ヨリ品川迄

六哩四十四鎖

品川ヨリ新橋迄

三哩十七鎖

計

三十六哩六十一鎖

第二川崎線

八王子ヨリ川崎迄

廿七哩

川崎ヨリ新橋迄

十哩七鎖

計

三十七哩七哩

第三横濱線

八王子ヨリ横濱迄

廿七哩

横濱ヨリ新橋迄

十七哩七十三鎖

計

四十四哩七十三鎖

右ニ付テ見ルキハ新宿線最近ニシテ横濱線最遠ナリ語ヲ換テ言ヘバ
新宿線ハ川崎線ヨリ近キヲ廿六鎖凡四分ノ一哩川崎線ハ横濱ヨリ近

工學會誌 第十六卷

キヲ七哩六十六鎖故ニ新宿線ノ横濱線ヨリ近キヲ八哩十二鎖ナリ

第二工世上ノ比較

工世上ニ就テハ新宿線ノ難所ハ八王子福嶋間長程凡一里ニシテ此間ハ著シキ切取(凡十八尺)及ヒ築立(凡廿六尺)ヲ要シ且淺川ニ百間多摩川ニ四百間ノ橋梁ヲ要ス武藏野新田ニハ難所ナシ此線路ハ砂利取ニ最モ困難ナリ

川崎線ノ難所ハ長沼村ヨリ高幡村迄長程凡一里半分切取半分築立ヲ要ス其高平均凡十五尺此間多數ノ水拔ヲ要ス連光寺山長程凡一里是亦著シキ切取并ニ築立ヲ要ス其分合凡半々ニシテ切取土ヲ以テ築立工ヲ爲スヲ得ベシ直高平均凡三十尺ニ越ヘザルベシ其他ハ稻毛水田ヲ經過スルヲ以多數ノ水拔ヲ要ス此線路ハ淺川并ニ多摩川ニ沿フテ以テ砂利取ニ便利ナリ

横濱線ノ難所ハ走水峠及川井村山中切取工事及ヒ多數ノ水拔ナリ此

線路砂利取最モ困難ナリ

第三工費上ノ比較

工費ハ新宿線及ヒ川崎線ノ外調査セシヲナシ則チ左ノ如シ

新宿線

川崎線

橋梁及水拔費	二六〇、一二八、〇〇〇	七三、六八一、〇〇〇
土工費	六〇、五六一、九〇〇	一〇四、八六四、二〇〇
家屋移轉料	七、〇〇〇、〇〇〇	* 〇、〇〇〇
鐵軌費	一四二、五六〇、〇〇〇	一四七、八四〇、〇〇〇
枕木買	八一、〇〇〇、〇〇〇	一一一、二〇〇、〇〇〇
砂利費	九四、五〇〇、〇〇〇	二九、四〇〇、〇〇〇
電話機費	二、八〇〇、〇〇〇	二、八〇〇、〇〇〇
潰地費	一四、九八七、〇〇〇	三六、五九〇、四〇〇
測量及工事監督費	七、一二三、二〇〇	三、五六一、六〇〇

測量器械費

一、七二一、五〇〇

一、七二一、五〇〇

停車場費

五、五三〇、〇〇〇

五、五三〇、〇〇〇

列車費

一一三、三六〇、〇〇〇

一一三、三六〇、〇〇〇

計

七九三、二六一、六〇〇

六三〇、五三八、七〇〇

* 川崎線ハ著シキ家屋移轉ノ場所ナシ且土工費ノ内へ組込メ
リ故ニ之ヲ除ク

第四營業上ノ比較

營業費ハ兩線共大差ナシ則チ左ノ如シ

停車場附屬諸費

一〇、二〇四、〇〇〇

列車附屬費

三、五〇四、〇〇〇

消耗品
種油

九、四八五、〇〇〇
五〇二、二一一

鐵道其他修繕費積立金

二九、六九五、五〇〇

瀛關車修繕費積立金

九、六五七、五〇〇

客車其他新調費積立金

六〇〇〇、〇〇〇

本社費及諸税金

五〇〇〇、〇〇〇

計

六五〇四八、六一一

右ハ川崎或ハ横濱線ノ一ケ年ノ營業費ナリ新宿線ニハ大橋修繕費積

立金千圓ヲ加フ則チ左ノ如シ

六六〇四八、六一一

兩線一ケ年收入豫算金左ノ如シ

新宿線

一一六、三五七、五八〇

川崎線

一〇七、三〇九、六八三

兩線壹ケ年ノ純益金左ノ如シ

新宿線

五〇、三〇八、九六九

川崎線

四二、二六一、〇七二

兩線資本金ニ對スル配當金左ノ如シ

新宿線

六朱三四余

川崎線

六朱七弱

差引川崎線ノ方〇、朱三六多シ

左レ氏双方ニ其利益六朱余ニ過キザルハ彼鐵道株ニ惑溺スル人々ノ
注意スベキ所ナリト云フベシ

第五商業上ノ比較

八王子地方并ニ山梨縣郡内ヨリ輸出スル處著大ノ物品ハ生糸并ニ絹布
ニシテ多クハ海外ニ輸出シ他ハ上方地方ニ賣捌クモノナリ然ルニ上方
并ニ田舎地方ニ八王子絹ヲ賣捌クニ舊慣アリ一旦東京著名ノ呉服屋ノ
手ニ交附シ其店ノ商標ヲ附シ各地ニ輸送スト云ヘリ如斯ハ一時ノ姑
息ニシテ文化ノ進ムニ從テ次第ニ消滅シ八王子店ノ商標ヲ以テ滿天
下ニ八王子絹ヲ流布セシムルハ八王子商家ノ奮發ト勉勵ニ由テ得ラ
ル、モノナリ此事ニ付テハ東京ノ商權ノ幾分ヲ害スルナルベシ八王

子并ニ郡内地方ニ輸入スル物品ハ米酒醬油其他雜貨ニシテ是迄多クハ東京ヨリ輸入セリ然ルニ右物品ハ東京ニ於テ產出スルニアラズ又製造スルニアラサルナリ川崎或ハ横濱線ノ成立スルニ於テハ酒類ノ如キハ攝州或ハ勢州又ハ尾州等ヨリシ米ノ如キハ稻毛ヨリスベシ是亦幾分ノ東京商權ヲ害スルモノナリ青梅飯能所澤等ノ木綿ハ其原物海外ニ仰キ製造ノ後又海外ニ輸出スルモノ少ナカラズ田舎地方ニ供給スルモ少許ニアラザルナリ是亦川崎線或ハ横濱線ノ成立ニ因テ東京ノ商權ヲ害スルナリ其他狭山ノ茶ノ如キ亦同一ナリ之ヲ要スルニ新宿線ノ成立スルニ於テハ東京商權ニ於テ左迄妨害ナラザルモ川崎或ハ横濱線ノ成立ニ依テ其幾分ヲ害スベシ之ニ反シ地方則チ產地ニ於テハ幾分ノ利益ヲ増進スルベシ之ト共ニ横濱ノ利益モ少ナカラザルベシ

第六軍事上ノ比較

軍事上ノ事ニ就テハ小生等ノ知ル處ニアラズト雖モ新橋ヲ中心トスルキハ新宿川崎線ノ差僅ニ四分ノ一哩ナレハ左迄ノ差違アラザルベシ然レモ玆ニ一議論アルベシ他ナシ兵員ヲ送ルニ新橋ニヨラズシテ新宿ニヨルヘシト是レ或ハ然ラン然レモ東京鎮臺ヨリ新宿迄ノ里程凡二里此旅行ノ時間ハ少クモ一時間ヲ要スルベシ同所ヨリ新橋迄里程凡十五町此旅行時間十二分ニ新橋新宿間ノ瀛車行時間(急行一時間三十哩ト見積)廿分ヲ加ルキハ三十二分ニシテ新宿ニ達ス然レハ軍團ヲ輸送スルニハ必ス瀛車行ヲ以テスベシ是レ前說ノ成立スル能ハザル所以ナリ

第三 結論

小生ノ此比較論ヲ草スルヤ僅ニ旬日ヲ出テズシテ全ク之ヲ終リタルモノニシテ線路踏査ノ如キハ徒歩地形ヲ熟考スルノ暇ナク人車疾行ノ際目撃セシ所ヲ以テ工費豫算ノ已知件トナシタルモノナレバ決シテ

完全無欠ノモノト云フヘカラス然リト雖是ヨリ先キ小生ノ該地方ニ
跋涉スルヲ亦一日ニ非ザルヲ以テ川崎八王子間或ハ新宿八王子間ノ
地形ノ如キハ其全部ヲ通シテ足踐セシニ非ラザルモ其幾部ヲ通過ス
ルノ運ニ遇ヘリ故ニ假令鐵道線路踏査ノ目的ヲ以テ此兩線ヲ觀察シ
タルハ今回人車ニ依テ通過シタルヲ以テ始トスト雖モ單ニ之ノミヲ
以テ全ク豫算調査ノ基礎トシタルモノニ非ラザレハ敢テ架空ノ席上
論ニ非ラザルヲ信スルナリ

第一線路ノ長短ヲ以テ論スルハ新橋ヲ中心トセハ第一線路ハ第二
線ニ比シテ四分ノ一哩ノ短縮ヲ生ズト雖モ横濱ヲ以テ中心ニスルハ
ハ十三哩三十四鎖ノ伸長ヲ來スベシ故ニ長短ヲ以テ比較セハ第二線
ノ第一線ニ優ルヲ敢テ多言ヲ要セザルナリ

第二工事上及工費上并ニ營業上ニ就テ論スルハ第一線ニ於テハ非
常ノ築立或ハ切取ヲ要スル所少シ第二線ニ於テハ長沼高幡間ハ山側

工學會誌第六十四卷

ヲ通過シ加之ニ連光寺山ノ開鑿等アルヲ以テ第一線路ニ比シテハ稍多分ノ土工ヲ要ス然リト雖氏第一線中ニ於テモ福嶋ヨリ大和田迄著シキ土工ヲ要ス而シテ此土工ニ於テハ第二線ノ如ク地勢上切取工ヲ以テ築立工ニ利用スル能ハザルナリ加之玉川及淺川ニ架スヘキ二橋アリ抑玉川及淺川ハ平時ハ流水甚タ僅々ナルモ一朝洪水ノ際ニハ濁水兩岸ニ漲リ其水勢猖獗ヲ極ム故ニ此兩橋ノ築造ハ第一線路中ノ至難ノ事業ナルモノ、ミナラズ第二線中ニモ未タ其比ヲ見ザルナリ加之ラス第二線中其大半ハ玉川或ハ淺川ニ沿フカ故ニ砂利ヲ得ルニ便ナルノミナラズ玉川ノ下流ニ於テハ諸材料運輸ニ舟楫ノ便ヲ得ルヲ少シトセズ工費上營業上ニ就テハ已ニ陳述スル如ク第二線ニ利益アリ由是觀之工事上ト云ヒ工費上ト云ヒ營業上ト云ヒ第二線ノ第一線ニ優ルヲ遙ニ數等ノ上ニ出ルヲ見ルナリ(工事上及工費上并ニ營業上ノ比較ノ項ヲ參觀セヨ)

第五商業上ニ就テ兩線ノ得失ノ如キハ或ハ東京ノ商權ハ奪フベカラ
ズト云ヒ或ハ横濱ハ商業都府タルベシト云フ等論者ノ論據トスル處
ニ依テ結論ニ異同ヲ生スルモノ、如シト雖モ小生ハ此等ヲ一括シテ
所見ヲ陳ヘント欲スルナリ抑鐵道ノ要タル其直接或ハ間接ノ利益ヲ
陳ズルキハ殆ド枚舉ニ暇アラズト雖モ要スルニ運搬ノ便ヲ開キ殖産
ノ道ヲ起スニアリ然リ而テ本論ノ起ル第一第二線ノ如キ八王子以北
ノ荷物ハ措テ論セス八王子東京横濱間ノ物産ニ就テハ第一線ヲ取ル
キハ第二線ニ集ル諸荷物ヲ収ムルヲ難シト雖モ第二線ニ因ルキハ第
一線ノ目的トスル荷物ノ一部ヲ收入スルヲ容易ナリ今日ヲ轉シテ東京
ノ商業ニ關係如何ヲ見レハ現今八王子或ハ甲信地方ヨリ運輸サル、
物産或ハ此等地方ニ向テ發送スル荷物ハ盡ク東京ヲ經過スル慣例ナ
リト云フ事實如斯ノハ第二線ノ起ルト共ニ此等ノ幾分ハ東京ヲ經ズ
シテ横濱ヨリ直接ニ同地方ニ向テ運輸サル、ハ勢ノ免ルヘカラザル

モノニシテ是レ第一線主唱者ノ第二線ハ東京ノ商權ヲ害スト切論ス
 ルノ大要ナリ然リト雖モ東京百萬ノ人口中此甲信武地方商業ノ幾分
 チ裂テ横濱ニ送ルニ於テ衰頽ヲ來スモノ幾人カアル實ニ微々タルモ
 ノナルベシ而シテ此衰頽ニシテ果シテ日本全國ニ生ズルモノナラン
 ニハ亦棄ツヘカラザルモ東京ノ衰頽ト共ニ僅ニ七里ノ道程ヲ距テダ
 ル横濱ニ於テ之ニ對スル繁盛ヲ來スヤ昭々トシテ明ナリ而シテ此繁
 盛ハ東京ニ生スル衰頽ヨリ寧ロ大ナルモ決シテ小ナラザルヲ信スル
 ナリ

今ヤ横濱築港論盛ニ行ハレ有志者ハ非常ニ盡力中ナリト云ヒ或ハ
 豫算ノ如キハ略出來上リタリトノ噂アリ横濱ノ築港ニシテ果シテ行
 ハレンニハ孰レカ第二線ヲ捨テ第一線ヲ取ルノ迂ヲ笑ハザルモノア
 ランヤ

以上陳述スル處ヲ以テ見レハ距離工費工事營業ノ四點ヨリ觀察ヲ下

スキハ無論第二線ヲ可トス而シテ單ニ商業上ニ就テハ東京ノ商業ヲ害スルトノ說アレト之ニ對スル橫濱ノ繁盛ヲ來スノ利アリ一利一害ハ勢ノ免レザル處ニシテ利ノ多ク害ノ少キヲ取ヘキハ尋常ノコニシテ敢テ識者ヲ待タスシテ明カナリ何ソツ東京ノ商業ヲ害スルノ一事ヲ以テ第二線ヲ捨ツルヲ得ヘケンヤ最後ノ築港論ノ如キハ少シク想像ニ亘ルノ嫌ヒアレト目下有志者ノ熱心計畫ニ從事スルヲ聞キ一言シタルニ止マルナリ築港セザル今日ニ於ケルモ既ニ第二線ニ益アリ況ヤ其實施サル、後ニ於テナヤ

論 評

中村貞吉君(幹事代)曰ク清水保吉君ノ演說ハ目今誠ニ緊急ノ問題ナルノミナラス甚タ大切ノ工事ナレハ請フ出席諸君充分討議アラントナシ渡邊洪基君曰ク演者ハ當今諸會社ノ株券非常ニ騰貴スルハ甚タ其實ヲ失セル旨ヲ云ハレシガ是ハ余モ大ニ同意スル所ナリ蓋シ當今ノ如

キ其實ナキ株券ノ高價ニ賣買スルノ流行ハ實ニ正直者ナシテ身代限
 リセシムルニ至ルモノト云フベシ然レモ線路ヲ確定スル一段ニ至リ
 テハ商業上ニ大關係ヲ有スルモノニ付決シテ輕卒ニ論スヘカラス就中
 清水君ハ木綿ヲ支那ニ輸出ス云々ト演セラレシガ木綿ノ支那ニ輸出
 スルハ甚タ僅少ノ數ナリ現ニ昨年ノ高ハ稍ク三千反位ナリシ殊ニ買
 易ノ事タルヤ實ニ錯雜極マルモノニテ假令ハ仙臺產ノ米ガ東京ニ輸
 出シ却テ仙臺ハ他邦ノ米ヲ東京ニ經テ輸入スルコアリ又海外ノ例ヲ
 舉ケンニ假令ハ伊太利國ノ產物ハ一度英國倫敦商家ノ倉庫ニ入り更
 ニ我國ニ來ルガ却テ其物品價值ノ廉ナル等其他此ノ如キ例枚舉スル
 ニ遑アラス是レ其貿易上止ムヘカラサルノ事實ニシテ強チ橫濱ニ直
 輸ズルヲ以テ貿易商業ノ得タルモノト云ヒ難シ又兵略上ニ就テ論ス
 ルモ新宿ハ勿論新橋停車場ヨリ兵軍ヲ送ルカ如キハ尙兵略上ヨリ便
 ト云フモノニ非ス是レ何日迄モ目今ノ有様ニ放任シ置クヘキニアラ

ス聞ク處ニ據レハ他日市區改正ノ後鐵道中央停車場ヲ現今ノ印刷局
近傍ニ設ケ東西南北鐵道線路ノ集點トスルノ計畫アル由又此地ヨリ
輸出スル貿易品ノ最ナルモノハ生糸ナリ然ルニ生糸ノ價ハ甚タ高貴
ナルモノナレハ譬ヘ線路ヲ東京ニ取ルトスルモ爲メニ増加スル運搬
費ハ品價全体ニ對シテハ僅々ナル比例ナリ又乗客ノ如キモ必ス東京
ノ方ヘ來往スルモノ多キ筈ナレハ余ハ其線路ヲ八王子ヨリ新宿ニ取
ル方得策ナラント信ス故ニ余ハ假令其建築工事ヲシテ新宿ニ達セシ
メシニハ途次大河アリテ之ニ架スル橋梁ノ爲メニ工費ニ多少ノ増加
アルモ到底我國將來ノ繁昌ヲ來サシムニハ線路ヲ東京ニ取ル方良策ナ
リト信スルナリ

清水保吉君曰ク八王子ニ於テ消費スル米穀多クハ武藏南部并ニ相模
地方ヨリ輸出シ同地ヲ通過シテ甲州郡内ニ入ルモ尠ナカラズ又同地
方ニ産スル生糸并ニ郡内ニ産スル甲斐絹類ハ海外ニ輸出シ青梅地方

ニ産スル木綿ハ支那ニ輸出ス最後ノモノハ格別ノモノニハアテザル
モ同地ノ嚟ヲ聞クニ内地不景氣ニシテ價廉ナルキハ著シキ輸出アル
ベシト今雜貨ノ如キハ東京ヲ經テ八王子ニ輸入スルヲ以テ前ノ如キ
御論アルナランガ是レ目今八王子横濱間道路不便ニシテ東京ヲ通過
スル方便ナルヲ以テナリ若シ果シテ川崎或ハ横濱ヨリ直チニ八王子
ニ達スル鐵道アラバ雜貨ハ盡ク其產地ヨリ横濱ニ輸送シ横濱ヨリ直
ニ八王子ニ入り亦東京ヲ經ルノ煩ナカルベシ仙臺米并ニ伊太利產物
ノ御論アリシガ是レ畢竟需要者并ニ供給者ノ其道ニ暗キモノニシテ
一時ノ姑息ニ出ルモノナリ如斯ハ文化ノ進歩ト共ニ消滅スルナルベ
シ故ニ余ハ飽迄川崎線ヲ主張スルナリ横濱線ヲ採ラザリシハ都府ヲ
隔ツル余リ遠キヲ以テナリ

中村君曰ク余ハ演說者ニ尋チタキヲアリ其收入一ハ十二萬圓他ハ十
壹萬圓云々ト云ハレシガ荷物旅客等ハ如何ニ算定セラレシヤ

清水君曰ク此算定ニ就テハ種々參考書ヲ取調ヘシモ適當ノモノナシ
大抵ハ杉山輯吉君ノ坂堺鐵道取調書其他東京前橋間鐵道取調書等ヲ
參考セシモノニテ一日ノ旅客ハ凡五百人アルナラント信ス又荷物ハ
渡船塲郡役所等ニ就テ調査セシガ貳萬五千個ナリト云フ又新宿線ノ
壹萬圓ヲ超過シテ他ニ一割ヲ増加シタルハ青梅、飯能、所澤等ノ物產運
搬費ヲ含蓄シテ算出セシモノナリ

佐藤正教君曰クグレートハ如何

清水君曰ク余ハ精密ノ機械ヲ使用シテ測定セサレババロメートルヲ
以テ計ルニ川崎ヨリ八王子ノ差ハ大凡貳百六拾尺ニシテ最急勾配六
十分ノ一二超ヘザルベシ

佐藤君曰ク一日ノ營業費如何

清水君曰ク百七拾八圓廿余錢ニシテ一年ノトレインマイルヲ拾三万
七千九百七拾哩ト豫定シ計算セシナリ

工 學 會 誌 第 六 十 四 卷

佐藤君曰ク一トレインマイル如何

清水君曰ク四十七錢余ナリ其内譯ハ線路修繕費積立金一トレインマイルニ付十五錢瀛關車修繕費積立金同七錢客車新調ハ廿年毎ニ一回トシ石炭ノ消耗ハ一トレインマイルニ付二十二英斤油ノ消耗五夕四才他ハ停車場附属諸費及ヒ列車附属人夫費本社費等ナリ

佐藤君曰ク修繕費ハ重複セサル哉

清水君曰ク營業費ハ一年ノ收入ヨリ一年支出スヘキモノヲ引キ去リ之ニ一年ノ積立金ヲ加ヘシモノナリ

佐藤君曰ク然ラハ積金ト重複スル様思ハル、如何

清水君曰ク然ラス

佐藤君曰ク頗ル高キ様思ハル如何

清水君曰ク或ハ然ラン然シ大過ナキヲ信ス

中村貞吉君曰ク今夕ノ演說ハ單ニ鐵道工事ノモノト雖凡是ハ實ニ我

國將來ノ繁盛不繁盛ヲ來スカ如キ最大ノ關係アルモノナレハ既ニ是等ノ如キハ實際我國ノ世故ニ熟練シタル人ノ説ヲ聽クハ最緊要ト思フナリ既ニ副會長渡邊君ノ御論モアリシガ尙他ノ諸君ニ於テモ充分之ヲ熟慮討議アラシク望ム

清水君曰今降壇ニ臨ミ尙一言スヘキコアリ他ニアラス横濱ハ實ニ貿易上ヨリ論スレハ通商市街ナレハ他日米國コンマリーシャルシチーパナマ運河ノ開クルニ至

ラハ其商業幾層ノ昌盛ニ至ルナラン又東京ノ市區改正并ニ築港ハ到底六ツケ敷事ト察セラル横濱ハ同事共東京ニ比シ甚ダ容易ナリ故ニ

日本ノ通商首都ハ他日横濱ニ移スニ至ルヤモ知ルヘカラス

渡邊君曰ク横濱ハ實ニ通商港市ナリ又通商港市トシテ可ナリ其他ノ事項ニ於テハ運輸ノ集點ト爲スヘキノ地ニアラス而テ東京ヲ距ル僅々ノ里數ノミ横濱ノ繁昌ハ取リモ直サス東京ノ繁昌ナリ何ソ首都ヲ横濱ニ移スカ如キ褊小ナル規模ヲ須ヒンヤ

清水君曰ク通商首都云々ヲ論セシモ是ハ余ノ議論余リ極端ニ偏セシモノナレハ取リ消シトシテ一步ヲ譲リ今假リニ八王子ヨリ直チニ東京ニ達スルノ線ヲ布設スルモ亦必ス一線ヲ横濱ニ連絡スルノ緊要ヲ感スル事ハ斷シテ疑フヘカラス他日其結果如何ヲ實視スルキニ至ラハ甚タ面白キ事ナラン

セコンダリー電池應用論

西 方 七 郎

余今夕此演壇ニ上リセコンダリー電池應用論ト題シ諸君ノ高聽ヲ煩サントスルトコロノモノハ余昨年五月爾來研究セルトコロノ結果ト其應用トニ過キス倍テ該電池ノ研究ヲ始メシハ明治十七年ナリシカ當時充分ノ好結果ヲ見ル能ハス殆ント中絶ノ姿ニ付シタリシカ近年電燈ノ盛ニ世ニ行ハルニ從ヒ益之レカ必要ヲ感シ昨年再ヒ其研究ヲ始タリ漸次望アル結果ヲ得遂ニ二月一日ヨリ之レヲ電燈點火用ノ一部トシ毎夜實用ニ供スルニ至レリ元來セコンダリー電池ノ應用ハ獨